

授業情報 / Class Information

基本情報 / Basic Information

詳細情報 / Detailed Information

授業計画詳細情報 / Class Schedule Details

基本情報 / Basic Information

開講科目名 / Course	情報リテラシー
時間割コード / Course Code	C10137
ナンバリングコード / Numbering Code	C11322
開講所属 / Course Offered by	学部講義情報コミュニケーション科目・情報基盤科目
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 前期 / zenki
曜限 / Day, Period	月 / Mon 3
開講区分 / semester offered	前期 / zenki
単位数 / Credits	2.0
担当教員 / Main Instructor	宮下 健輔
教室 / Classroom	E005 / E005

授業担当者情報 / Instructor Information

教員名 / Instructor	宮下 健輔
------------------	-------

閉じる / CLOSE

授業情報 / Class Information

基本情報 / Basic Information	詳細情報 / Detailed Information	授業計画詳細情報 / Class Schedule Details
カリキュラムマップ (24年度以前入学生 / 25年度以降入学生)	汎用的技能 / 汎用的スキル	
担当形態	単独	
講義 / 演習 / 実習 等 / class	演習	
教職課程関連科目法定規定科目		
教職課程関連科目施行規則に定める科目区分又は事項等		
対象学生	データ1	
教員メールアドレス / mailaddress	zako@kyoto-wu.ac.jp	
授業形態 / class	選択してください。 / Please make your choice.	対面授業
	詳細を入力してください。 / Please enter your details.	15回全て教室にて実施する。必須ノートパソコン持参の上、パソコンの利活用方法やOffice系ソフト・プログラミングの操作を実機演習により習得する。中盤にグループワークを行うことで学習テーマについて意見交換しながら成果物を作成する。
副題 / subtitle	情報活用の基礎知識と基礎的手法を系統的に学ぶ。	
授業の到達目標 / Achievement Goals of the Course	加速度的に発展する情報技術を社会生活で活かすための情報リテラシーを、統合的な座学とグループ討論等を通して主体的に学び、身に付ける。また、社会基盤としてのICT(情報通信技術)を学生生活で活かすための知識とスキルを、総合学習を交えて実践的に習得する。	
学位授与の方針と関連 / Degree Conferral Policy and Relations	・数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用するためのリテラシーを理解している。 ・情報技術(ICT)について理解し、活用するために自分の言葉で仕組みを説明することができる。	
授業の概要 / lesson summary	社会基盤としてのICT(情報コミュニケーション技術)を学生生活で活かすための知識とスキルについて、総合学習を交えて実践的に習得する。また加速度的に発展する情報システム技術を社会生活で活かすための情報リテラシーについて、統合的な座学とグループ討論等を通して主体的に学ぶ。	
授業時間外学習 / lesson After-class study	この授業では予習・復習など、自主学習を行うことを前提としている。課題ガイドに記載する課題は、必ず期日までに実施すること。また、Webシステム上でのタイピング練習やOfficeアプリケーションの操作習得、paizaラーニングでのプログラミング入門学習は、課題終了後も積極的に自主学習すること。知りたいこと・分からないことを主体的に調べ、理解する取り組みを期待する。さらに、発展学習としてpaizaラーニングでプログラミング言語やフレームワークの自主学習を推奨する。	
授業時間外学習時間	授業初回に案内(授業ガイドPDF参照)	
課題に対するフィードバック / feedback	授業の中で口頭による全般的な解説・講評をおこなう(一部テストや課題は点数詳細を開示)	
関連分野 / Related Fields	データ・AIリテラシー、情報基礎、データ・AI基礎	
教科書 / textbook	【購入必要】『つくりたい!がカタチになる 学生のためのOfficeスキル活用&情報モラル』noa出版/978-4-911200-02-5/第一版/2024年	
参考書 / reference book	授業中に指示する	
学生へのメッセージ / message	この授業の到達目標は、大学の情報環境を理解し、情報系の基礎的知識と実践的手法を総合的に学ぶことです。全15回で11のテーマを扱い(情報とコミュニケーション、情報の表現とアクセシビリティ、ネットワークとセキュリティ、情報社会の法と権利、データの処理と分析、データベース、デジタル表現(画像・色・音)、システム開発、アルゴリズムとプログラミング、現代社会と情報システム)、グループワークを交えながら学習します。ITパスポート試験(国家資格)やMicrosoft Officeスペシャリスト等の資格取得に向けた学びにもつながります。	
当該科目に関連した実務経験の有無 / Experimental experience	実務経験の有無(有を選択した場合は概要科目に関するご自身の経歴・職歴を記載してください) / Work experience	無
	経歴・職歴(期間不要) / Work experience	なし
評価方法	評価方法	その他 100 %
	評価の観点	評価方法の詳細は 授業内外の学習成績 →25% 事前学習の取り組み(予習・復習、e-Learning等)→35% PBL・到達度確認テスト →40% です。
ルーブリック / rubric	あり	
ルーブリックリンク	<a href="https://kyotowu.sharepoint.com/:f/e/SharePoint319/IgBqPQicH9RrRmpa0hUEeHAFVtrN-XkDZWOya_Dk0E?e=OU5gs33">https://kyotowu.sharepoint.com/:f/e/SharePoint319/IgBqPQicH9RrRmpa0hUEeHAFVtrN-XkDZWOya_Dk0E?e=OU5gs33</a>	
京女AL(アクティブ・ラーニング) / Active Learning	① / 1	振り返り
	内容① / substance	事前事後学習を授業内で指示をする
	② / 2	PBL(課題解決型学習)
	内容② / substance	授業内で行う
	③ / 3	反転授業
	内容③ / substance	事前学習を指示し、授業内にて実践する
	④ / 4	グループ学習 協同学習/共同学習
	内容④ / substance	授業内で行う
⑤ / 5	ディスカッション/ディベート	
内容⑤ / substance	授業内で行う	
⑥ / 6	実験・実習・実技	
内容⑥ / substance	実習を行う	
⑦ / 7		
内容⑦ / substance		
⑧ / 8		

授業情報／Class Information

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

No.	回 (日時) Time (date and time)	主題と位置付け (担当) Subjects and position in the whole course	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	1	大学の情報環境	大学の環境を把握した上でネットワークに接続し、学内の情報環境を利用できる。IDとパスワード、メールアドレス、無線 LAN 接続、ポータルサイト、LMS、学内設備、学内ネットワーク利用規程、情報倫理規程などについて学ぶ。	
2	2	情報とコミュニケーション	情報システムおよび社会的コミュニケーションとの関わりについて説明できる。情報、情報システム、情報化の進展、生成系AIの発達、社会的コミュニケーションなどについて理解する。	
3	3	ネットワークとセキュリティ	情報ネットワークおよび情報セキュリティの基本的事項について説明できる。インターネット、プロトコル、セキュリティ、公開鍵暗号などについて理解する。	
4	4	情報の表現とアクセシビリティ	情報には様々な表現方法があることや、データを扱う倫理、データ活用法について説明できる。データ、仮想現実、複合現実、機械学習、情報倫理などについて理解する。	
5	5	情報社会の法と権利	著作権法や個人情報保護法、情報技術の進展が法に及ぼす影響などについて説明できる。著作権法、個人情報保護法、知的財産権、肖像権、プライバシーなどについて理解する。	
6	6	総合学習-1	総合学習では第2回～第5回の授業内容と現代社会の関わりについて学習し、グループでのレポート作成を行う。まず第6回ではグループ内で授業内容について討論し、レポートテーマの決定を目標とする。	
7	7	総合学習-2、データの処理と分析	第6回で決定したテーマについて、レポートを作成する。レポートに入れる数値根拠についての学習として、必要なデータを収集し適切に処理して分析する手法を身につける。データの処理方法、統計など	
8	8	総合学習-3	引き続きグループでレポートを作成する。	
9	9	総合学習-4	第8回で提出したレポートについて、他のグループが提出したレポートと相互評価を行い、他のグループのレポートを参考にして自グループのレポートを改善する。教員からのフィードバックを参考にして最終版を完成させる。	
10	10	アルゴリズムとプログラミング	アルゴリズムやプログラム、プログラミング手法について理解し、模様を描いたり正弦波による音を鳴らしたりするプログラムを作成する。アルゴリズム、計算量、プログラミング言語、などについて理解する。	
11	11	データベース	データベースの基礎やデータベースと社会のかかわりについて説明できる。データベースの種類、機能、設計、社会的役割や必要性などについて理解する。	
12	12	デジタル表現1(色、画像)	色のデジタル表現や画像データの構造、静止画と動画の性質などについて説明できる。符号化、標準化、圧縮、画像フォーマット、人間の目の特性などについて理解する。	
13	13	デジタル表現2(音)	音のデジタル表現や音データの構造、動画との関わりなどについて説明できる。符号化、標準化、圧縮、音声フォーマット、人間の耳の特性などについて理解する。	
14	14	システム開発	システム開発を依頼する側として必要な知識について説明できる。システム開発の流れ、要件定義、方式設計、アルゴリズムなどについて理解する。	
15	15	現代社会と情報システム	現代社会と情報システムの関わりについて例を挙げて説明できる。クラウド、IoT、金融システム、交通システム、防災、SNS、電子政府などについて理解する。	

閉じる/CLOSE